

2013 年 11 月 1 日
環境社会配慮助言委員会委員長 村山 武彦
担当ワーキンググループ主査 清水谷 卓

チュニジア国 ラデス・コンバインド・サイクル発電施設建設事業
(協力準備調査(有償))
スコーピング案に対する助言

助言案検討の経緯

ワーキンググループ会合

- ・ 日時：2013 年 10 月 18 日(金) 14:07～17:36
- ・ 場所：JICA 本部 (会議室：1 階 111 会議室)
- ・ ワーキンググループ委員：石田委員、岡山委員、清水谷委員、二宮委員、日比委員
- ・ 議題：チュニジア国 ラデス・コンバインド・サイクル発電施設建設事業協力準備調査に係るスコーピング案についての助言案作成
- ・ 配付資料：チュニジア国 ラデス・コンバインド・サイクル発電 SC 案事前配布資料
- ・ 適用ガイドライン：国際協力機構環境社会配慮ガイドライン(2010 年 4 月)

全体会合(第 41 回委員会)

- ・ 日時：2013 年 11 月 1 日(金) 14:30～17:23
- ・ 場所：JICA 本部(会議室：1 階 113 会議室)

上記の会合にて助言を確定した。

助言

全体事項

1. 再生可能エネルギーによる発電を含めた発電方法別の電力供給計画を記し、本事業の必要性をわかりやすく DFR に示すこと。
2. ラデス C 発電所の周辺に立地する（あるいは今後建設する予定のある）他の発電所、変電所、送電線などの建設の経緯や目的を整理し、それらの関連施設を不可分一体の事業とみなさない（あるいはみなす）理由について、わかりやすく DFR に記述すること。
3. 貴重種・希少種の保全に関する国内法、並びに同分野の国際的な取り組みとの関係について調査し、必要に応じて種の保護における提言をおこなうこと。

代替案の検討

4. 代替案の検討に当たっては、既存データ等を利用して、再生可能エネルギーを利用した発電事業との比較検討をおこなうこと。また、環境社会面に関する評価に GHG 排出量をできる限り加えること。そのうえで本事業の必要性を DFR に示すこと。

スコアリング・マトリックス

5. 本事業から発生する有害廃棄物の具体的な内容および推定される排出量を調査し、結果を DFR に明記すること。
6. 最も近い自然保護区の位置や距離、概要を示したうえで、その自然保護区への影響を評価すること。
7. サイト周辺にどのような生態系（特に海洋・沿岸・河川）が存在しているのかを含めて、（貴重）種だけでなく、生態系の多様性の視点からも評価すること。
8. 温排水による影響を評価する場合は、温排水の拡散シミュレーションを行い、藻場等の生態系への影響を評価するとともに、漁業で生計を立てている住民が当該地区で存在する場合は、漁業への影響を評価すること。
9. 雇用や生計手段等の地域経済の項目を評価する場合は、漁業への影響も考慮すること。
10. 供用時の「越境や気候変動」影響は、「B -（ある程度の負の影響）」との評価なので、文中の表現（影響はほとんどない）を評価と整合させること。

環境配慮

11. 事業実施においては Guidelines 値の達成を目指すことを STEG に確認し DFR に記載すること。
12. 本事業から発生する有害廃棄物について、発生から最終処分までのフロー及び処理方法を DFR に明記すること。
13. 大気拡散シミュレーションによる評価については、発電施設に対して最近傍の居住地区への影響を含め DFR に記載すること。
14. 生態系への回避できない影響については、代替を含めた対策を策定し提案すること。

社会配慮

15. 発電所周辺地区の社会経済並びに発電所が面する海域の漁業の現状を調査の上記述すること。
16. 発電所建設により変化する海上輸送交通とそれが漁業に与える影響について調査すること。

ステークホルダー協議・情報公開

17. 第2回ステークホルダー協議の開催に際しては、関心のある住民・女性・社会的弱者が参加できるように取り計らうこと。

その他

18. 陸上・海上交通の変化に伴う交通規制の必要性について検討すること。

以 上